

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ようやく春を迎え、人と車両の輸送が増加している。また、一部ではあるが観光客も増え始めている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・当市では、今月から高齢者に対して、市内バスの無料券を交付していることもあり、高齢者の買物客の増加がバス停付近で確認できる。買物後はバスを利用せず、タクシーを使っている買物客も多いようにみられる。ただし、買物内容としては日用品等が多く、依然としてぜいたく品及び衣料品等の割合は少ない。また、前年と比較して、歓迎会等の後に2次会に流れる酔客が増加している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・テレビや新聞の報道などで、大阪市長の発言や東京都知事の尖閣諸島に対する発言など、どちらかといえば国民にとって聞こえが良いような報道が多くみられることに加えて、東北の復興景気への期待感が消費に良いムードを与えている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量は前年比96%と相変わらず前年を下回っているが、先月に引き続き、3か月前との比較では右肩上がりとなってきている。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・商品単価、客単価ともに以前よりも伸びている。前年と比較しても0.1~0.2%の伸びがあり、消費としては上向いている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・東日本大震災の影響で控えられていた、学会、大会、企画旅行が回復傾向に転じている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・北海道からのアウトバウンドは春休みから拡大傾向にあるが、北海道へのインバウンドは、当地では流水もなくなり、閑散期になっているため、今一つ伸び悩んでいる。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・今月に入り、卒業旅行などの国内の来場者が増加傾向にある。また、台湾やマレーシアなど、海外からの来場者についても前々年並みに戻りつつある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ3か月連続して、売上が前年を5%程度上回って推移している状況であるため、景気が良くなってきた感がある。
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き
商店街（代表者）	お客様の様子		・気温が上昇し、晴れの日が多くなるにつれて、少しずつ消費マインドが上昇してきている印象を受ける。	
商店街（代表者）	単価の動き		・気温の変化が激しいなかで、春物のコートの出足が非常に遅れている。また、春物をコーディネートして組合せて買う客が少なく、客単価が低下している。	
商店街（代表者）	お客様の様子		・客の様子をみると、入学や進学などの関係でお金がかかるため、出費を抑える傾向にある。	
一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き		・4月半ばまでは販売量があまり良くなかった。後半になり持ち直してきているが、全体ではやや悪い状況である。	
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子		・4月も後半に入り、来客数は増加傾向にあるが、買上率や買上単価は横ばいが微減傾向にある。気温が上昇してもすぐに状況は好転しないとみられる。	
百貨店（販売促進担当）	単価の動き		・客単価の上昇傾向は引き続き維持しているものの、来客数や買上客数は低下している。前年は東日本大震災が多少なりとも顧客心理に影響していたため、一巡した今年3月中旬以降は来客数が伸びるものと期待していたが、前年からの悪化が下げ止まらない。	
百貨店（役員）	それ以外		・前年は、3月が東日本大震災後の特需で売上が増加したことで、4月が大きくマイナスとなったが、今年は前年が悪かった分、前年を大きく超えている。ただし、それは数字だけのことであり、景気が回復しているとは言い難い状況にある。気候が良くなったことでファッションは好調であるが、家電や家具などの耐久消費財は苦戦が続いている。	
スーパー（店長）	来客数の動き		・今年は降雪量の多さもあり、広域からの来客はなかなか厳しいものがあった。一方、近郊からの来客については、スーパーを中心に連日の折込チラシを展開したこともあり、日による増減はあるが、全体の売上は変わらない。	

スーパー（企画担当）	販売量の動き	・今月の売上は、前年の東日本大震災の影響による特需の反動減から前年割れとなったが、前々年との比較ではプラスとなっており、トレンドとして必ずしも低下しているというわけではない。	
スーパー（役員）	来客数の動き	・客単価は前年比101.5%と前月と同じ水準で推移している。ただし、前年の東日本大震災後の特需の影響で来客数が増加していた時期との比較のため、来客数は前年比94%と前年を下回っている状況であり、この状況は5月まで続く恐れがある。	
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・何となく客に落ち着かないような雰囲気がある。落ち着いて買物をするのを忘れてるように感じる。	
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・客は衝動買いよりも目的買いの方が多い。予算を組み、バーゲン品などの安い品物よりも、質の良い品物で少しでも価格が下がった商品を購入する。	
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・春を迎えたが、観光客があまり増えてこない。	
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・ゴールデンウィークが始まるまでは、東日本大震災後の前年と同じくらいの来客数で心配したが、最終的な売上は前年を13%上回った。桜の開花もまだであるため、季節の良くなる5月以降に期待している。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・低価格メニューが好評で前年並みの売上となった。北海道版グルメガイドが発売になったことで、星付きレストランは予約が集中しているが、星がなかったり、調査対象外のレストランは客足が悪く、特にディナー客が減少している。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・上期実績が前年比97.8%となっており、客の動きは停滞気味である。	
タクシー運転手	来客数の動き	・現在の状況も3か月前からの追跡調査でも、ほぼ同様に売上等の動向が改善されていない。来客数、乗客数等も大きく変わっている状況ではないため、景気の状態は横ばい状態にある。	
タクシー運転手	来客数の動き	・前年比で注文数が若干減少している。特に観光客の減少が目立つ。	
通信会社（社員）	お客様の様子	・客から積極的な消費が期待できるような言葉が聞こえてこない。景気や将来の展望が描けていないことや政治の不透明さが原因のためか、先行きが不透明であることから、前向きな行動を起こせないという言葉が聞こえる。	
観光名所（従業員）	来客数の動き	・前年は東日本大震災直後で比較しづらいため、前々年との比較で利用客数をみると、約85%となっている。3か月前の1月は前年との比較で86%であり、利用客数の動向としてはほぼ同じような水準にある。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・あまりにも不景気が続くため、特別今更詳しく話すことはない。	
住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・この冬は大雪だったため、春の訪れが遅くて来場者が少なくなっている。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・マンションの購入に関する客の判断は相変わらず早い。客の方が営業マンより積極的である。このような状況が半年以上も続いている。	
やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・気温が低いいため、春物の動きが厳しい状況にある。ジャケット、コート関係は前年比95%、ニット、カットソー関係は前年比90%の動きとなっている。気温が上がることを期待している。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・4月は買上客数が前年比90%台前半と不振である。上旬は気温が低いという天候要因もあったが、下旬に入り天候が回復しても来客数が伸び悩んでいる。客単価は前年比101～102%の見通しにあるが、売上は前年をやや下回りそうな状況にある。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・野菜や米の値上がりが続いており、客は食料品全体が値上がりしているように感じている。そのため余分な物を買わないように節約傾向になっている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上に関しては、前年のたばこの欠品以降、前年を上回って推移している。しかし、たばこ以外の商品群は前年並みかそれ以下であり、来客数も減少傾向にある。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・4月後半になり、来客数が落ち込んだ。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年の家電エコポイント制度終了の反動から、回復傾向となることを予想したが、引き続きテレビの需要は低迷が続いている。冷蔵庫も前年を大幅に下回っている。	

	乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・ 新型車効果も一段落してきたのが、イベント時の来客数も期待していたほど良くない。補助金や減税の効果も今のところ様子見の感じにある。	
	その他専門店 [医薬品](経営者)	お客様の様子	・ 購入層の高齢化など、景気に関して良いことがほぼない。配達依頼が減っているのが心配だ。	
	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・ 製品価格の高騰にともない、ガソリンの販売量が東日本大震災後の前年より減少している。	
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ 季節的に歓送迎会が中心であるが、予算縮小傾向が引き続きみられる。2次会などもなくなっており、件数、来客数とも減少している。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・ 例年4月は、雪のある時期と比べてタクシーの利用が減ってくる。前年は東日本大震災の影響で観光客が激減したため、今年の4月は期待したが、売上は前年より少し増えた程度で、前々年よりマイナスとなった。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・ 東日本大震災の影響のあった前年の4月と比較すると、売上は前年比120%と伸びているが、3か月前の雪が多い時期と比べると約20%落ち込んでいる。雪が解けて暖かくなったことがタクシーの利用減につながっており、3か月前と比較してやや悪くなっている。	
	通信会社(企画担当)	単価の動き	・ 大幅な値引きを行わなければ、購入に至らないことが多く、収益が伸び悩んでいる。	
	悪くなっている	商店街(代表者)	それ以外	・ 観光土産店を経営しているが、4月の売上は前年比6割と、東日本大震災が起こった前年よりもさらに悪くなっている。このような状況は、北海道の他地区でもあるようで、今年は「震災」ならぬ「大震災」と言われている。5月はホテルの予約状況も良いことから期待したい。
		観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・ 本州方面からの団体ツアー客が激減している。九州や沖縄方面への旅行需要がおう盛で北海道方面への旅行会社の送客数が大きく減少している。また、道内客の動きも鈍く、景気は悪い。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業(団体役員)	受注量や販売量の動き	・ 東日本大震災や福島第一原子力発電所の風評被害もやわらぎを見せ始めており、海外観光客を含む来道者の増加にともない、外食向け製品の受注増加がみられる。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・ 住宅向け商品、請負物件ともに活況である。
		建設業(従業員)	競争相手の様子	・ 新年度予算による公共建築工事に加えて、市内では大型民間建築工事が複数着工しているため、本州への派遣等で人員を減らしていた建設会社では担当する職員が不足している。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・ 特定の需要によるものであるが、受注量が明らかに増加傾向にある。
		コピーサービス業(従業員)	受注量や販売量の動き	・ 1つの案件当たりの単価が上がってきている。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・ 設備投資に関する情報が増えてきている。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・ 道内の販売量は現在のところ、前年を下回っているが、本州地区の販売量は前年を上回って推移している。
	変わらない	食料品製造業(役員)	受注量や販売量の動き	・ 3か月前と比較すると、相変わらず良くない状況である。前年比では1割強落ち込んでいる。
		金属製品製造業(役員)	受注量や販売量の動き	・ マンション関係は少しずつ回復してきているが、戸建住宅に関してはなかなか上向きになってきておらず、受注量も変わらない。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・ ゴールデンウィーク前の送り込みで、飲料品、医薬品の輸送がすこぶる順調である。天候も西日本から温度が高くなってきており、東日本の天候回復に期待している。

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・季節的要因から荷動きは上向き傾向にあるが、前年と比較すると、東日本大震災関係の影響を除くと大きく変わる要素が見えない。公共投資を始めとして民間物件の動きも鈍い。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・個人消費関連では、雪解けが遅いため、ゴルフ場などの屋外レジャー関連の出足が鈍い。観光関連は外国人観光客はほぼ東日本大震災前の水準に戻ったが、宿泊単価が低下している。建設関連は一部ではあるが復興需要がみられ、技能工などが不足気味となっている。	
	司法書士	取引先の様子	・建築業、不動産仲介業ともに低い水準で推移している。地域経済が活性化しない限り、回復が困難な状況である。	
	司法書士	取引先の様子	・例年、不動産の取引が雪解けとともに多くなるが、今年は停滞したままである。原油高、増税問題、電力事情など不安材料が多すぎるため、高額な投資に対して消極的な姿勢がみられる。	
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業、飲食店、宿泊業、娯楽業の求人が伸びている。特に建設業は前々年の倍近くの件数となっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年は東日本大震災直後の求人控えがあったため、求人数は前年比で約130%と大きく伸びている。なかでも、宿泊業や不動産業が顕著に伸びている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・不安要素はあるものの、米国の大手金融機関の破たん以降の最悪期から回復基調にある。また、季節的な要素から、例年より遅い雪解けだったものの、ようやく経済が動き始めてきているような印象がある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・4月の募集広告の売上は前年比134%と大きく伸長した。小売、流通が前年比170%、派遣が前年比138%、医療が前年比144%と柱の業種が大きく増加している。自動車、飲食、運輸運送もプラスで、全体的に好調を維持しており、前年実績を大きく上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数についてみると、医療関連の求人は引き続き増加傾向にあるが、それ以外の求人は横ばいで大きな変化がみられない。北海道の季節要因であるが、雪解けにより建設業が動き出し、求人は一時増加するとみられるが、景気が好転しているわけではない。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・時給も含めて給与が低下傾向にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・今月に入ってから求人件数が微増傾向となっており、前月と比べて求人件数の伸びが平行線である。
		職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は前月に引き続き0.54倍と前年を0.07ポイント上回ったが、依然高い水準とはいえない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の3月の新規求人数は前年から4.9%の増加となっており、有効求人倍率も前年を0.09ポイントと大きく上回ったが、その要因は新規求職者が減少したことによるものである。新規求人についても更新求人の割合が高かったことから、求人と求職のミスマッチが依然として続いており、厳しい状況は変わっていない。
職業安定所（職員）		雇用形態の様子	・3月の新規求人数は前年を7.4%上回った。新規求職者数は前年を12.8%下回った。月間有効求人倍率は0.68倍となり、前年の0.53倍を0.15ポイント上回ったが、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は42.5%と依然として低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。	
	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・身の回りの企業関係者の声に、それほど変化はない。自身の生活感覚からも上向いている感じはしない。	
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	